



皆さんは、このショートストーリーを聞いて、どのように思われましたか？ あれっ？と思った人いませんか。

これは、わたしたちが、いかに無意識のうちに勝手な思い込みをしているか？に気づかせる話です。

もうわかったでしょうか？まだわからない？

さっきのストーリーは「外科医は男性である」という思い込みで聞いてしまうと、おかしなことになってしまいます。もし「外科医が男性」であるならば、「別の病院に運ばれた父親である男性」が、息子の病院にやってきて手術をしようとしていることになるからです。

そうです。この外科医は、お母さんだったのです。

このような脳が作り出す思い込みのことを、アンコンシャス・バイアスと言います。

アンコンシャス・バイアスは、過去の経験や周囲の意見、日々接する情報から作られるもので、誰もが持っています。しかし、自分のアンコンシャス・バイアスに無自覚な場合、人を傷つけてしまったり、人間関係でトラブルを起こすことになるかもしれません。

「他の人もやっている」と思っていることは、よく考えると自分が一番身近な人わずか数名だけだったりします。LINEで「みんなも言っているよ」というのは、実際に数えるとたった2人なんてこともあります。脳は状況によって、心を安心させるために、大勢の人がそうやっているんだと思い込ませようとアンコンシャス・バイアスを発動させます。特に、人間は、恐ろしいものや未知のものであるほど、リスクが大きいと思い込むアンコンシャス・バイアスが生じやすくなります。

1月2日に起きた日航機の滑走路での衝突事故。海上保安庁の飛行機の乗組員の方には痛ましい結果となりましたが、ジャンボジェット機の379人は奇跡的に無事でした。

全員の脱出について「客室乗務員が炎の状況を見極め、適切な非常口を選んで乗客を誘導したために、乗客が大きなパニックに陥らず、指示通り動いたことが今回の結果につながった」と言われています。

未知な状況・不安の中で、助かる方法・逃げる手段を冷静にそして明確に伝えることができたから、脳のうそ、つまりアンコンシャス・バイアスに踊らされることがなかったのでしょう。

新年の始まりは、「よし、今年はこういうことをやってみよう」という目標に向かって出発する時であり、去年までの自分より成長した自分を誰もが期待するスタートの時です。

しかしそこには、「どうせ自分なんて無理」という、アンコンシャス・バイアスも生じやすいです。

「きっと、ムリ」「私なんて・・・」「だって、今までもそうだった・・・」

もしもこんな言葉が頭をよぎったなら、

「それは、自分の脳がうそをつくアンコンシャスバイアスかも？」と、立ち止まり、どうしたらその目標を実現することができるか具体的に考えることで、一步踏み出すことができるはずですよ。

新しい年になり、今考えている目標を、自分の脳のうそに騙されず、自分の可能性を信じ挑戦する3学期にしてほしいです。

そして、わたしの話の後に3人が新年の抱負を発表しました。Hさんは、野球部での強いスイングの改良について、Kさんは、柔道や生徒会の目標と方策について、Rさんは、自分に合う学習方法を見つけ受験までの日々を3年生全員で乗り越えたいと話しました。

3人の話は、いずれも具体的で、きっと脳がうそをついても騙されずに実現できそうです。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。